

明けましておめでとうございます。市長の前田晋太郎です。

今年の新春対談には、東京2020オリンピック男子400mハードルに出場された黒川和樹選手と、田部高校で黒川選手を指導された木田勝久先生をお迎えしました。この対談を通じて、市民の皆さまが、未来や希望を感じ、元気な気持ちになっていただければうれしく思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

人生初のオリンピックを終えて

市長 まずは黒川選手、オリンピック本当にお疲れさまでした。下関出身で彗星のごとく現れた若き期待の星のようなインパクトをすごく感じました。決勝まで行けなかったのは残念だったと思いますが、市民にとって、本当に明るいニュースとなりました。オリンピック選手に選ばれて、実際走ってみて、率直にどうでしたか。

黒川 そうですね。成長したのが急だったので、自分が出られると



陸上競技選手 黒川 和樹

ルを越えて世界へ～

は思っていなかったです。良い経験ができました。オリンピックが2020年に開催されていたら、モチベーションなど心の準備も出上がっていなかったと思います。**市長** オリンピックを意識したのはいつ頃ですか？

黒川 2020年の日本インカレで49秒19で走ったんですけど、東京オリンピックの標準記録まであと0・3秒のタイムだったんです。それで「あつ、いけるかもしれない」と感じました。

市長 先生から見えてどうですか？

木田 高校では全国大会すべてに入賞し、その頃から活躍しているんです。ただ、予選は本気で走らないですよ。決勝だけ本気で走る。だから自分の記録をなかなか持つことができなかつた。日本インカレでやっと記録が出たなあと。**市長** その時点での自己ベスト？**黒川** そうです。1秒ぐらい伸びました。

木田 やつと本来の彼が出たなと思います。高校を卒業する時に「東京オリンピックには間に合わないけど、2024年のパリオリンピックは絶対いける」という話

木田 勝久 さん

Katsuhisa Kida

1960年周防大島町生まれ。陸上競技を指導したいとの想いから教員を志望。田部高等学校勤務時に、陸上部顧問として3年間黒川選手を指導。部も毎年インターハイに出場するなど数々の功績を残す。現西京高等学校教諭。教科は数学。



黒川 和樹 さん

Kazuki Kurokawa

2001年下関市生まれ。2017年田部高等学校入学。2019年全国高等学校陸上競技選抜大会300m障害優勝。2020年法政大学入学。2021年東京2020テストイベント400m障害優勝(48秒68/自己ベスト)。第105回日本陸上競技選手権大会400m障害優勝(48秒69/五輪内定)。東京2020オリンピック400m障害予選6位(50秒30)。





をしていたんですけど、開催が1年延びたので、「1年延びたんなら狙おうやあ」とメールをしました。やはり本人がその気になったというのが大きいかなと思います。

市長 以前は決勝だけ一生懸命走ってたんですか。

黒川 そうですね。ずっとそんな感じでした。

木田 何を言ってもだめでした。

市長 東京オリンピックに出場して、感情的にはどうでした？

黒川 やはり、悔しかったですね。日本選手権まで結構いい流れできていたので、このままいけるかなって思ってたんですけど。世界の壁みたいな感じでした。予選を通過するためには49秒中盤ぐらいの記録が要るんです。普段なら結構余裕で出せるタイムなんですけど、力が出せなかったです。

これまでを
振り返ってみて

市長 黒川選手はずっと下関で育ったんですか？

黒川 小学校は川中小小で、途中で長成中学校に転校して、田部



下関市長 前田 晋太郎

新春対談 ～ハード

高校に進学しました。

市長 陸上競技を始めたきっかけは何ですか？

黒川 小学6年の時に市の体育大会に走り高跳びで出場して、そこで陸上競技って楽しいなと感じ、中学校から始めようと思いました。部活が決まるのが4月中旬ぐらいで、最初にできた友達みんな野球部だったので、野球部に入ろうかなと思っていたときもあったんですけど、母が「絶対陸上部の方がいい」って言って。中学校の時はあまり目立った成績を残していませんんですけど、田部高校に進学して木田先生の指導のもと、陸上の成績が伸びました。

市長 中学校では400メートルは得意ですか？

黒川 はい。中学校の時は四種競技をやっていました。高跳びをやりながら、ハードルも楽しそうだなと思って先生に言ってみたら、「やってみれば」と言われハードルを始めました。やってみたら、とても楽しくて。四種競技にはあと400メートル走と砲丸投げがあります。砲丸投げは、投げてみたんですけど、全然飛ばなかったです。

天才・別格・日本一

木田 黒川選手が中学3年の時、高跳びをやっているのを見たんですけど、遠くから見ていることもあり、特別な印象はありませんでした。ただ田部高校に入ってきて走る姿を見たらびっくり。いわゆる天才。今も体の線が細いんですけど、その頃はもっと細くて、これは筋力をつけたらすぐにインターハイ優勝だと。別格ですよ。

市長 走る姿で、もうビリビリきたということですか？

木田 普通の子であれば、かなり努力してもなかなか身に付かないことが最初からできている。だからもう日本一を狙える逸材だな。まさかオリンピックまでとは思っていませんでした。

市長 その頃は、走っていて順位も良かったんですか？

黒川 いや、そんなことはなかったです。走るのもそんなに速くなかったですね。

木田 当時は筋力がなかったんですよ。だから、良いフォームをしていてもそれを伝える力が弱い

でそんなに速くは進まないんです。
市長 黒川選手はどこか行きたい高校があったんですか？

黒川 はい。木田先生から話があった時には、豊浦高校に行くこと決めていましたが、一応、話を聞きませんでした。

市長 先生から声をかけられて、どうでした？

黒川 そうですね、自由に陸上競技ができる感じがして、田部高校に行きたいなと思いました。

市長 やっぱり運命の分かれ道ってあるんですね。



田部高校時代の黒川選手

変わったスタイルと 変わらないキャラクター

市長 高校に入って、成績の伸びはどうでしたか？

黒川 高校2年でインターハイに



出ることができました。

市長 400メートルハードルを走る時のペース配分は、どのように考えていますか。

黒川 前半から飛ばします。前半に力を使って、後半は耐えるとい

うイメージです。

木田 高校の時は、いくら前半から行けて言っても、タラ〜としか走らない。前半から行けば絶対49秒台が出るって何度言っても。

市長 前半飛ばすスタイルでは？

木田 やっとそういうスタイルになったんです。日本選手権の時は1台目のハードルまでにパーンと飛ばして行ったので、これは決まったなという感じをもっていました。オリンピックが終わって、昨日久しぶりに会ったんですけど、性格は高校の時から変わらない。周りの強い選手からも好かれてるんですよ。知らない選手も「黒川黒川」って言って寄ってくる。みんななかかわいがられる感じですが、忘れ物が多いのが玉にきずですが。

黒川 今日です。オリンピックで着ていた日本代表のジャージを持って来ようとしたんですけど、寮のベッドの上に忘れて来ました。

目指すべき目標と その距離は

市長 これからの黒川選手の目標は何ですか？



《特集》2022年 新春対談

黒川 そうですね、直近の目標は、2022年の世界陸上の決勝を走ることです。そして、その経験を生かして、次のパリオリンピックでも決勝を走るといのが目標ですね。タイム的には、為末さんの日本記録が47秒89なので、それを超えたいです。

市長 それは大きいですね。ぜひ、目指してほしいです。47秒89。黒川選手の自己ベストは？

黒川 48秒68です。

市長 あと0・8秒。どうですか。

黒川 いけると思います。

市長 黒川選手が、日本記録を更新するという夢が今日一つできました。目標を達成するためには、自分の中で何が課題ですか。ウイークポイントというか。

黒川 前半は結構走れているんですけど、その分後半失速して、ハードルの9台目10台目で結構ぶれてしまいます。そこでぶれずに、スーッと最後まで押していければいい記録が出ると思います。

市長 体の軸がぶれるということですか？

黒川 そうです。後半は結構横に振り出します。そこがしっかり、

前に前についていう走りになるといけると思います。

市長 先生から見て、それを解決するためには何が必要だとお考えですか？

木田 筋力ですね。日本選手権を見に行かせてもらったんですけど、やっぱり9台目10台目でぶれていて。もう少し筋力アップと持久力をつける練習を積むと決勝進出だなと。黒川選手の考えと全く一緒です。

市長 銅メダルを取ろうと思うと、どれぐらいのタイムが必要なんですか？



黒川 銅メダルは結構レベル高いですね。46秒台は要りますね。

木田 47秒台を出したら間違いなくメダルという感じが20年ぐらい続いていたんですけど、昨年世界のレベルが跳ね上がりましたね。パーンと。トップ選手が45秒台出して、世界記録にもなりましたし。

地元パワーを追い風に

市長 地元の応援とか家族とか友達とか、どうですか反応は？

黒川 すごくいいって言われます。

市長 急にお父さん、お母さん、親戚が優しくなったりとか。

黒川 なりますね。(笑)

市長 応援してくれる仲間が増えていくのもすごく大事だと思います。どこで誰が助けてくれるかわからない。私もいっぱい助けてもらいながら、市長をやっているの。一人じゃ絶対できないです。人間ってそういう意味ではルーツが大切だと思うんですよ。それは黒川選手にとって、故郷であり、先生であり、家族であり、友達。だから苦しいときは、ぜひ下関を振り返ってほしいです。



黒川 そうですね。下関は私の原点です。海が好きなんですけど、下関に戻って海や自然を見ると、心が落ち着きます。

市長 では最後に、下関の皆さんにメッセージをお願いします。

黒川 下関市の誇りになれるようにこれからも頑張りますので、応援をお願いします。

市長 きっと応援してくれると思います。黒川選手、木田先生、本日はお忙しいところ、ありがとうございます。これからも夢に向かってがんばってください！